

谷の鶯歌は歌を思えど…この時期は鶯にとって、とっても難しい時期ですね。

早く歌の練習をしなければと焦り気味。これは雄、雌はなにをしているのか？

焦っているのは雄の鶯、なぜ、歌が上手にならなければならないか？

早く山にいて自分に有利な縄張り（テリトリ）を決めなければならない。

中でも歌の練習が最も大切で「ホーホケキョ」だけなんだけれど、これをきれいに歌えるかがライバルたちとの競争なのだから。誰が聞いてもうっとり、のどかに。

先日、春一番が吹いたが、また、寒い冬が戻って来た。鶯はどうなっているのかと思う。心配はいらないいづれ春は来る。菜の花はとっくに咲いた。

花見川で歌の練習場を終え、もういいだろうと思うものから山に行く、縄張りを決める。歌を歌う。すると雌が来て縄張り、歌のできばえが評価される。合格ならばメスはこれからが忙しい。

巣作りの場所を決め、巣作りが忙しい。

トコロガドッコイギツチョンチョン。

托卵(タラシ)がはじまった。

ホトトギスが鶯の巣作りから産卵まで近くに来て見張っている。鶯が食事のため巣を空けるとそのホトトギスが留守宅に入って、すばやく自分の卵を産み付ける。ホトトギスの卵は大きい、一つだけを産み付ける。

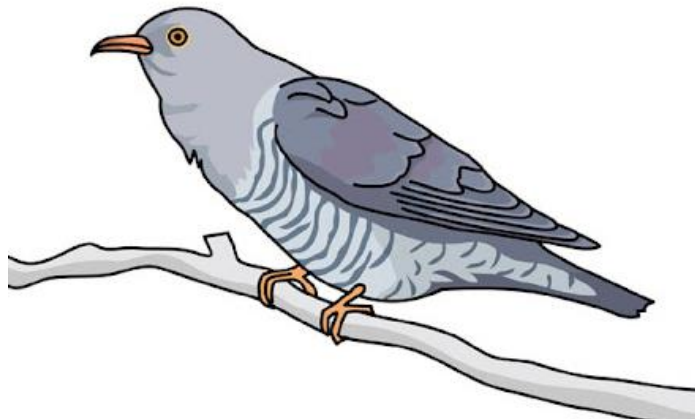
鶯は食事から帰って巣に戻って大きな卵がふえている。この異変に気が付かないから不思議だ。しかも鶯より早くふ化する、その雛が鶯の卵を巣から外に落としてしまう、そのうち鶯の親より大きくなるため、自分だけ養ってもらうため、親より大きい雛がひとり餌をもらう必要がある。



ホトトギス



ウグイス



カッコ